

新人研修レポート

営業部 学術・安全管理室
戸澤 世利子・貫井 涼平

初めまして。今年4月に中途採用により入社しました戸澤世利子と申します。前職では家畜保健衛生所の職員をしていました。営業部の学術・安全管理室に配属となり、これからは学術情報の提供などを担当させていただきます。

さて、動物用医薬品業界は未経験のため、7～8月にかけて、営業に同行する「同行研修」と、実際に農場で作業を体験する「農場研修」を受けましたので、その概要について拙筆ながらご報告させていただきます。

同行研修では、三重県、青森県、千葉県の実験場に訪問しました。

三重県では成鶏のみを飼養している農場に伺いました。このときは、産卵成績についてメーカーから助言が欲しいと先方から要望があり、当社の鶏用ワクチン開発を担当してきた獣医師も帯同しました。ディーラーと管理獣医師も交えて農場の現状や検査成績などについて情報交換し、鶏舎内や廃鶏の解剖も見学させていただきました。産卵成績については、育成期の環境や感染症、ストレスなどが卵管の発育に影響することがあるため、成鶏に明らかな異状がみられない場合は検査をしても新たに分かることは少ないだろうと当社の獣医師が説明したところ、先方は納得してくださり、今後の方針もまとまったようでした。外部の人から助言があったことで不安が解消されたようだったので、現地に伺って直接お話をすることはやはり重要だと感じました。

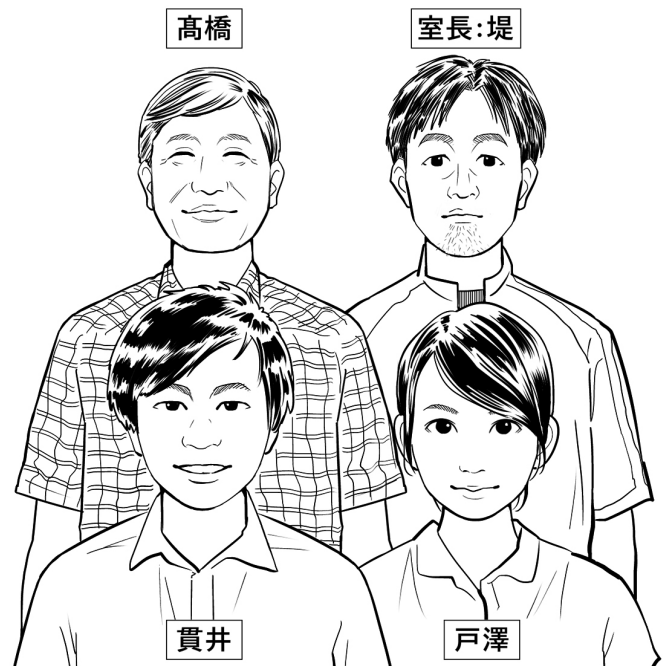
青森県では、養鶏場の管理者と管理獣医師の方にお会いしました。青森県には多くの養鶏場がありますが、他県と比較し、病気をしっかりコントロールしている農場が多いとお話でした。青森県は市場まで輸送費がかかってしまうことから、経営する上で高い産卵成績を維持することが重要なのだそうです。地域の事情によってそれぞれ特色があることが分かりました。

千葉県の養鶏場では、農場の部長と若い女性従業員2名の方が対応してくださいました。千葉県のいくつかの養鶏場は毎年、房総エリアをまる1日かけて100km歩く「ぐるっと房総100kmウォーク」に参加されているそうで、若い女性のお二人も去年参加されたそうです。ゴールしたときは大きな達成感を感じられたとのことでした。さらに、お二人は翌日には普段どおり出勤されたそうです。若さって素晴らしいなと思いましたし、若い従業員がいると農場の雰囲気もより活気があるような印象を受けました。

養鶏研修では、埼玉県の養鶏場で2日間、作業のお手伝いをさせていただきました。内容としては、初生ひなの導入作業、育雛のワクチン接種、集卵と卵の仕分け作業をしました。ワクチン接種では捕鳥に手こずり、接種に手こずり、一羽一羽をケージから取り出してワクチンを打つことが重労働だということも、身をもって知りました。不慣れな人間にワクチンを打たれた鶏たちはストレスがかかってしまったらと思うと、鶏にも農場にも申し訳ない気持ちでいっぱいです。

最後になりますが、今回の研修を通して多くの方々にお会いし、とても貴重な経験ができました。お会いした皆様にこの場を借りて感謝申し上げたいと思います。今後は一日も早く皆様のお役に立てるよう精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

営業部 学術・安全管理室のメンバー



初めまして。今年の3月に麻布大学を卒業し、4月から新卒採用された貫井涼平(ぬくいりょうへい)と申します。新人研修の一環で行った「営業同行研修」「農場研修」に関して感想等を述べさせていただきたいと思います。

全国の営業担当者と同行していて気づいたこととしては、ワクモに対する関心度が高いと感じました。ワクモによる被害に対して非常に困っている農場もあれば、上手にコントロールして成績に影響がでない状態で付き合っている農場もありました。早めのオールアウト、清掃消毒の徹底、長めの空舎期間、長靴や道具の使い分けなどが上手に付き合うポイントではないかと感じました。

また、首都圏の人口増加や訪日外国人数の著しい増加による、卵や鶏肉の消費量に都道府県で大きな差が生じることにに関して考えられている方が数名いらっしゃいました。来年以降、東京オリンピックや大阪万博が開催され世界から日本の産業・農業・食が注目されることになるかと思えます。その上、訪日外国人数も増えていることが伺えます(下図参照)。世界では「動物福祉(アニマルウェルフェア)」に対する関心が高い方も多いので、それに対応した飼育方法「環境エンリッチメント」の卵や鶏肉が求められる可能性があり、対応していかなければならないと思いました。

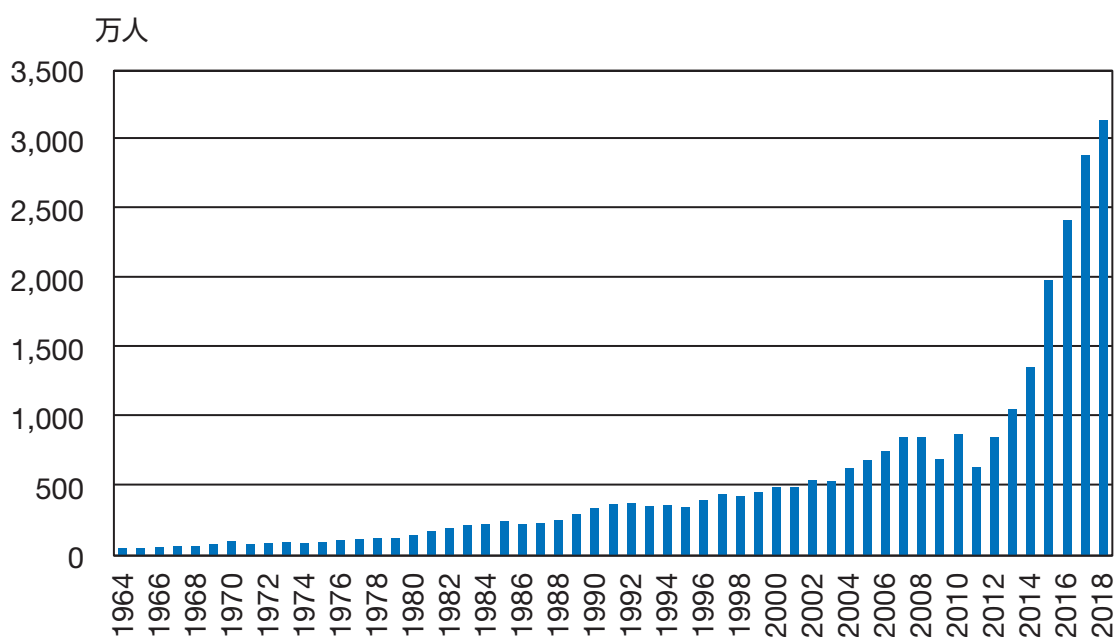
ワクチンと疾病に対する話題としては鶏伝染性気管支炎(IB)、鶏伝染性ファブリキウス嚢病(IBD)、鶏貧血ウイルス病(CAV)、鶏大腸菌症などがありました。IBに関しては野外株に対するワクチンの選択も重要になると思いますが、同様に衛生管理もまた重要なポイントだと感じました。他の疾病も決して発生がないということではないと思いますが、衛生管理やワクチンによって上手くコントロールできているということが伺えました。

農場で現場研修している中で一番大変だと感じたのは、やはりワクチン接種でした。学生時代には一度も接種したことがなかったため、獣医師となり初めて経験させていただきました。この経験からワクチン接種の簡便な方法を今後考えていかなければならないと感じました。

また、先ほど述べたアニマルウェルフェアに配慮した「エンリッチドケージ」を見せていただく機会もありました。止まり木や垂れ幕など鶏の習性に応じたケージでのびのび生活していました。欧米ではさらにエイビアリーの非ケージ鶏舎なども導入する動きがあるので、今後日本も対応しなくてはならない時がくるかもしれないと感じました。

最後に「営業同行研修」「農場研修」に際し、対応していただいた方々にこの場でお礼を申し上げたいと思います。研修を通して、まだまだ私の知識が足りないことを実感したので、いち早く皆様のお力になれるように精進して参りたいと思います。

今後、日生研株式会社の学術担当として現場の方々にはお世話になると思いますが、何卒宜しくお願い致します。



出所：日本政府観光局 (JNTO) 発表統計より作成

年別訪日外国人数の推移 (1964年以降)